

地域密着型通所介護				運営推進会議 議事録 【第 1 回】			
日時：平成 29 年 9 月 26 日（火）16：30～17：45				場所：まんてん吉祥寺 機能訓練室			
利用者	A 様	地域代表	B 様	地域包括	大内裕子様	通所介護	山田康一
家族	ご欠席（書面にて）			市職員	豊岡 久仁子様	通所介護	山田裕美
■議題				■議事内容			
<p>1. 活動状況報告</p> <p>○登録者数（市内・市外、合計）</p> <p>○平均介護度</p> <p>○活動報告</p> <p>○非常災害時の対策</p> <p>○ケース報告</p>				<p>1. ○登録者数（市内 35 人、市外 8 人、合計 43 人） 稼働率 90%以上、今年度月平均利用者 380 人</p> <p>○平均介護度 2.1（前回より↓） 週 3 回以上のご利用者が多い</p> <p>○活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用人数が増え、高度なクラフトについていけなくなる方が見られるようになったため、クラフトのレベルを下げ、皆さんに楽しんでもらえるようにした。ゲームや歌遊び風船のレクなど体を、使うようなレクとバランスよく提供していくよう工夫している。</li> <li>・専門家によるレクリエーションに関しては、ベリーダンスが終了、アロマセラピーを新たに導入。</li> <li>・イベントとしては、サロンコンサートのほか、落語会や阿波踊りの公演などがあった。</li> </ul> <p>○防災訓練</p> <p>かねてより課題であった防災訓練を 9/16 職員向けに行った。消火器等設備の確認、屋内待機、屋外避難の判断方法、それぞれの手順について確認を行った。次回は実際に利用者様の誘導を行ってみる。</p> <p>○ケース報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人が在宅生活が不可能になったわけではなくご家族が介護の限界を訴え施設入所になった方が 2 名い</li> </ul>			

た。家族への介護サービスに関する理解を事業所としても啓蒙していく必要があると感じた。

・医療デイではないが、過去に末期がんの利用者を受け入れた経験があり、現在も1名通所されている看護師常駐だからこそ可能であり、10月より看護師2名体制になるので、さらに積極的に医療的ケアが必要な方の受け入れをしていきたい。訪看、訪問医との連携も積極的にとっていきたい。

・本日参加してくれている利用者代表のケースでは、介護者である娘様が末期がん患者。ご家族に対するレスパイトケアという視点からのご利用いただいております。デイ利用中に夕食、口腔ケア、トイレ介助を済ませてからお送りしている。今後もこのようなケースも受け入れていきたい。

## 2. 管理者より

・おかげさまでご利用者様が増え、稼働が上がっている中、五日市街道沿いという立地上、送迎時の車への乗降中に自転車通行者とのトラブルが尽きない。中には悪徳な通行者もいる。都道であるために容易に対策が講じられていない。防犯カメラの設置も検討している。

## 3. 出席者より、要望、助言等

・明るく和やかな印象を得た。医療的なケアをしているということだが、今後もそのようなケースを受け入れていくか？またどの程度まで受け入れ可能か？

→今後も積極的に受け入れたい。今までのケースでは痛みの無い方ばかりだったので、鎮痛剤の管理などが主治医と連携して可能だったら、そのようなケースも受け入れていきたい。食事の調整も他の疾患も可能な限り受け入れていく予定。

・延長で夕食をとってもらっているというお話だが他の方も可能か？

→サービス提供終了時間の17:30までなら可能である。

・非常に熱意のある話が聞けたと思う。送迎時の通行トラブルに関しては立地上ご苦勞されていると感じている。まずは送迎時間だけ撤収可能な看板等出してみるとか、人的に可能ならば一人立たせて注意を促すなどできることからやってみたらどうか？

・昨年より出席しているが、本日も話を聞いていて、介護の内容がどんどん難しくなっていると感じた。地域の現状を見ている、独居や所帯を持たない子どもが老いた両親の面倒を見ているといったケースをよく聞く。これからますます必要となってくるサービスなので、職員確保も問題もあるが頑張してほしい。